初出 『ホルテ・チノ日本の心』 第8号 2011年9月

『日本の言霊が、地球を救う』 所収

パンドラの箱が開かれた地球危機の今、

ことだま

日本の言霊が 世界を救う

山波言太郎

3・11 東日本大震災から10年

これでいいのか 日本――

世界は今、コロナ禍に投げ込まれた

3・11 直後の山波言太郎の論文を再掲載します

目次

第一章 パンドラの箱に残された一つの希望とは何か

- 一、〈序〉 3・11大震災は天罰である
- 二、実母の子殺しが殖える、世は末か？
- 三、世界に開いた撫子の花、残された希望
- 四、パンドラの箱の底に残った一つのもの、希望とは何だろう

第二章 3・11は人類文明転換の信号塔

- 一、人類は二つ目の火を自分で創った、ああ、災いの日よ
- 二、誰が作った？ 第三の爆心地化〈日本列島〉、明日の運命を
- 三、あなたは百万年後の世界に責任もてるか？
それなら今決死の愛に生きよう
- 四、清貧に生きよ、無限供給は人の愛が生む

第三章 日本の言霊が、世界の危機を救う

- 一、古い人、古い書を、見繕る勿れ
- 二、神軍兵法、日本国憲法、ユネスコ憲章は三位一体
〈結語〉 鎌倉から、奇蹟が起こる

第一章 パンドラの箱に残された一つの希望とは何か

一、〈序〉 3・11大震災は天罰である

石原都知事が「3・11大震災は天罰である」、そう一言で切り捨て、ただ翌日は謝罪しましたが、あれは真実です。その真意は、戦後日本人の我欲・自己中の生き方^がが神の怒りを受けて大震災となった。ただしこの天罰は新生日本のためには自戒と脱皮、立ち上がりのためのステップ台ということ。(被災者はその意味では犠牲者の意味合いをもつ)。

愛国者(保守派)の石原氏には、国の安全・自立・発展を考えようとしな^い日本人の野放図さが許せなかつた。ただ、保守派だからエネルギー源としての原発を否定しな^い。むしろ「日本は核武装をすべし」とまで言い切っている。保守系(愛国者の方々)の姿勢が今度の3・11大震災でより鮮明となった。渡部昇一氏、櫻井よしこ氏、田母神俊雄氏らはもとより、西尾幹二氏などは大震災は自前の核装備の絶好のチャンス到来としている、(注、西尾氏は脱原発宣言、但し核装備です)。愛国者の愛国とは経済力(原発容認)と武力(核装備容認)なのだ。何だ！これでは石原氏が唾棄した戦後日本人の我欲の野放図さと五十歩百歩ではないか。なぜなら、お金(力)を自分のためだけに使うか、力(経済力・武力)をお国の自立発展のために使うかの違い

なのだから。もちろん、国のために使う愛国は自己中・我欲とは無縁、尊いことです。だが、力（お金や武力）が国家を、自己を守るといふ姿勢は同じ穴の貉（じむら）です。行く行くは自堕落になり身を滅ぼす、国を滅ぼす。石原氏が自分で一言で切り捨てた「天罰」をまた必ず受ける。

二、実母の子殺しが殖える、世は末か？

戦後日本人の我欲・自己中が大震災という天罰を招く、これは一見暴論ですが、私達は今一つの大震災（天罰）にも目を向けなければいけない。それは戦後はじまった実母の子殺し（虐待）という、子供達にとつての大震災、そして女性が母性愛を失うという人間にとつての天罰です。

昨年（2010年度中）に全国の児童相談所が取り扱った児童虐待の件数は5万5152件とか。この20年間で5倍にも膨れ上がっている。何ということ、虐待者のほぼ6パーセントが実母なのです。中には実母が実子を踏み殺し、飢えたまま放置。鬼です、母でなく、鬼の手にあずけられた（産まれなければならなかった）子供達の運命はまさに3・11大震災に勝る大天災。そして、これはその末路は必ず亡国の、天罰です。

戦前、（私の25年間の体験からも）、実母の子供虐待など絶無、考えることすらあり得ないこと。どんなに貧しくても、地を這いつくばっても、自分が食わなくても子供にだけは食わせた、母

の愛が健在だった。もし、子供苛めがあるとすれば、それは継子苛め（継母の子供虐待）、この外に天と地の間に母の児童虐待など無し。まして実母のネグレクト（育児放棄）、まして身体的虐待（投げ殺し、叩いて殺し）など。これは動物さえもしないこと。どんな動物も産んだ子供は、自立するまでは本能として育てます。この動物本能さえも失ったのが戦後日本です。

新聞によると、3・11以後、首都圏の母親達の子育てストレスが急増したそうです。「将来うまく育つか心配」、これは当然のこと（放射能汚染）があるから。ただ、それだから「子供がわずらわしくイライラしてしまう」が70パーセント超。これは母親のウツ化（ストレス化）です。動物は外敵に囲まれた環境の中で決してウツ化はしない、身を挺して守る。母親のウツになる原因は、3・11後子供の「甘えが増えた」です。甘える子は手につけられない、母はイライラが増すばかり。なぜ甘えるか、それは子供のストレス増です。ストレスがたまって甘えてしまう。子供のせいではない、3・11天災・人災のせい？ いいえ、母親が愛を失ったから、子は愛を（母乳を、抱っこを、抱擁をおねだりして）甘えるわけです。甘える子に、手につけられなくてイライラする母は、自己が愛を喪失させている原因に決して気付かない。

幼児期に愛された子が、長じて愛を知る大人（他を愛することの出来る器をもつ人）と成る。これは動物の鉄則、まして人類進化のために不可欠のルール。このルールを戦後の日本人は喪失した。なぜ？ 離婚、母子家庭、これの増加。最近は生活保護を受ける母子家庭の保護費をねらって男が群がる。母は男と遊びまわり、育児をネグレクトする。同居すれば当然まま子虐待、

母が見て見ぬフリをする。

なぜ離婚が殖えるのか？ 戦前、女は一度嫁したら、二度と実家の門をくぐらない覚悟があった。今は、離婚が面白おかしくニュースになる。不倫、フリーセックスは当たり前。政府が人権尊重とやらで、私達の税金をバラまいて離婚を助長している。

何でも金かねですまそう、人間に一番大切な愛が失われようと、動物以下のケダモノに人が成り下がろうと、国の危機、天災（天罰）を産もうとも、全く不感症。

地上に愛が無ければ、世は闇。戦争と犯罪と饑餓が大きな口を開くだけ。愛を産む源泉は母。これは動物さえも本能として持たされている。まして、人は愛を育てるもの、日に日に助長されれば、世は愛溢れる別の良い世界にも変わる。女性は子を産む、男に出来ない役目。身二つになるということは、自己の半身を地上に顕出させるという、いわば神業かみわざ。そこにいる子供が自分の半身ならば、誰が自己を愛さない者がいよう、自分の身を削っても、目の前の半身（自己）をいとおしんで育てる。これが愛です。愛の源泉が、女性が苦しい出産の見返りに、いわば神から与えられている。だから、地上の愛は女性、母から生まれるのです。それが育てられた子供たち（半分が男性）にも、愛を知るといふ形で植え付けられ、地上に愛が広がります。

女性は（母になった女は）、地上の愛の門、いわば神が女を通して愛を地に撒いておられる姿。だから、「なでしこジャパン」の壮拳は素晴らしい。日本女性ならではの決死の愛の形を、奇跡の逆転勝利で、見せてくれた。